研究報告書

「地域の教育力の向上について」

平成２５年３月

福生市社会教育委員の会議

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

地域の教育力の向上の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

子どもを取り巻く教育環境の現状と課題
　1　学校に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

　2　家庭に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

　3　地域に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

地域の教育力の向上に期待される役割
　1　学校・家庭・地域の役割と連携の必要性　・・・・・・・・・・・・・　4

　2　学校関係に期待すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

　3　家庭に期待すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

　4　地域に期待すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

まとめ
　1　ネットワークの重要性と、それを構築する方法　・・・・・・・・・　9

　2　学校・家庭・地域の連携　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

　3　コーディネートの必要性と、
　　今後の社会教育委員の会議のあり方　・・・・・・・・・・・・・・・　10

　4　行政に求めること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

研究の経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

平成 23・24 年度福生市社会教育委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・　16

はじめに

近年、都市化や少子化、核家族化等社会環境の変化により、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。
社会の環境が大きく変わった現在において、こうした状況に対応するために、学校・家庭・地域が連携した取組が求められ、国や地方では有効な方策が検討されているところです。

平成 18 年 12 月に、制定以来はじめて改正された教育基本法では、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」（第 13 条）という条文が新たに加えられ、学校・家庭・地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携協力に努めることを規定しています。

かつて子どもたちは、地域共同体の中で大人たちや同年齢・異年齢の友だちと交流し、様々な生活体験、社会体験、自然体験を通じて生産、消費、文化及び生活習慣を体得するといったように、社会全体で子どもの教育に取り組む機能が維持されていました。

しかし、近年では核家族化や少子化等の影響によって、家庭や地域の教育力の低下が問題となっており、基本的な生活習慣やしつけ、地域における子どもの健全育成など、学校・家庭・地域が一体となって地域の教育力を再構築する体制づくりが求められています。

福生市においても、平成 23 年 3 月に策定された「第 2 期福生市生涯学習推進計画」の生涯学習の方向性の中で「地域の教育力の向上」が大きな柱となっています。これを推進、具現化していくため、学校・家庭・地域が一体となって地域で子どもを育てることができるよう、社会教育委員の会議の中で平成 23・24 年度の研究テーマとして検討を行いました。

福生市社会教育委員の会議
議長　日野　さよ子

地域の教育力の向上の目的

地域の教育力の向上の目的は、地域の様々な機関・団体が連携することにより相互の交流が活性化し、そこに住む子どもたちだけではなく、大人も「生きる力」を身につけ、優しさやたくましさ、よりよく生きる上での基本的な人間力を磨き高めていくこと。そして、地域に伝わる文化や伝統、基本的なルールを引き継ぎ、発展させていくことです。

その目的の達成のために、まず、大人が子どもたちを「育てる立場」であるということを自覚し、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整え、大人自身が自ら学び、地域にある様々な課題と向き合い、それに対処する行動を示すことが必要です。

さらには、住民のコミュニティーへの関心を高める上で、例えば、地域全体で伝統行事を活性化したり、学校と住民による協働事業を行う等、条件整備をしていくことも必要です。

今、噴出している様々な問題は、社会全体で克服すべき課題であり、この問題に地域集団として向き合い、解決に向けて具体的な行動を起こすことが、よりよい社会、住み心地よいまちづくりにつながります。

子どもを取り巻く教育環境の現状と課題

１　学校に関すること

近年、少子化や核家族化、都市化、社会環境の変化により、保護者の学校に対する要望が多様化しています。学力向上や子どもの安心・安全への取組、児童生徒の問題行動や問題を抱えた家庭への対応に加えて、キャリア教育、情報教育、食育、環境教育、国際理解教育など、学校には多くのことが求められ、学校の果たすべき役割や責任が増しています。社会の変化に対応する教育を進めるためには、学校だけでは限界があり、これまで以上に家庭との連携を深めるとともに、地域の関係機関との連携や地域の人材を活用するなど、地域全体で学校教育を支援する体制づくりが必要です。

学校教育を支援する体制づくりの１つとして、福生市では平成23年から平成24年にかけて、「福生市学校支援地域組織」が市内の全小中学校で開設しました。各学校に学校支援コーディネーターを配置し、学校と学校サポーター（ボランティア）との調整をして、学校の教育的ニーズと地域の力をつなぎ合わせることで、より効果的に学校支援を行うことを目的としています。現在の具体的な活動として、社会科授業での講師紹介、図書ボランティアや芝生管理などが行われています。

その他、登下校の見守りや環境整備なども保護者や地域の人々の協力で展開されていますが、ボランティアが一部の保護者や地域の人に偏ったり、学校が求めている支援との間にずれがあったりするなどの課題も見受けられるようです。

また、教育課程内で地域の人々との体験活動の時間を確保することが困難になっています。地域の人々と子どもたちがふれあう時間はとても大切であり、普段の学校生活全般において、地域住民に対して学校施設の開放等により学校を開くことで、地域の人々と交流ができるよう工夫することが必要です。

２　家庭に関すること

核家族化や都市化の進行、地域住民同士のつながりの希薄化などを背景に、子育ての知恵を伝え合う機会が減少し、家庭内や地域において子育ての相談をしたり、頼ったりする人がいないなど、子育てにあたる親の孤立感や不安感、子育ての負担感を増大させる傾向にあります。

一方、子育てについての精神的・時間的なゆとりを確保することが難しい雇用環境があり、保護者が子どもと過ごす時間が十分でなくなっており、地域全体で家庭や家族を支えていくことが必要になっています。

また、保護者の生活リズムに子どもを合わせるなど、自分中心に生活をする保護者の姿も見受けられます。

さらに、地域の町会組織への未加入や、子ども会活動への不参加など、地域とのつながりを求めたがらない保護者や、行政や各種団体が行う家庭教育の支援（学習・相談機会など）が届きにくい保護者がいるなどの問題もあります。

3　地域に関すること

子どもたちにとって、地域は、同年齢・異年齢の人たちと交流し、活動できる場であると同時に、多様な人間関係を体験する場でもありますが、少子化の影響で子どもを中心とした活動が停滞し、そのような機会が少なくなっており、子どもを取り巻く環境が閉塞的なものになってきているように感じられます。

反面、様々な体験活動が用意されても、すでに様々な準備が整っており、その場に来るだけで良いという受身的な姿勢で参加できるものもあり、子どもの自主性・主体性を育む上で、さらに工夫が望まれるものも見受けられます。

子どもの育成に関わる地域活動は、様々な団体が目的をもって活動を進めていますが、それぞれが個別に活動し、運営方法や活動内容が定型化しているものもあり、団体の役員などで新しい人材が育たない状況も見受けられます。

地域の教育力の向上に期待される役割

１　学校・家庭・地域の役割と連携の必要性

学校・家庭・地域の連携は、子どもたちの学力の向上や豊かな心の育成につながっていくものです。子どもたちが多様な価値観に気づき、心豊かに育つためには、その周りに様々な人間関係が存在していることが必要です。そのためには、地域における大人との関わりや異年齢の子どもたちとの遊びや集団での活動など、交流の機会を増やすことが大切です。

しかし、学校・家庭・地域は様々な課題を抱えており、教育力を十分に発揮することが困難な現状があります。それぞれの教育の目的を実現するためには、三者それぞれが子どもの教育に責任を持つとともに、相互に密接に連携・協力して取り組むことが重要です。

２　学校関係に期待すること

子どもたちの「生きる力」を育むために、各学校は保護者や地域住民との連携強化を図り、教育目標の実現に向けて動いていく必要があります。

また、学校が抱える様々な問題を学校だけで解決することが難しくなってきています。これまで以上に地域に対して学校への理解を求め、学校支援の受入れをさらに積極的に行うことで学校を開き、地域の関係機関との積極的な連携や地域の人材を活用することで、教員と子どもが向き合う時間を確保することができると考えられます。

さらに、地域の人々にとっても、学校支援活動に参加することは自らの生き甲斐づくりや地域の人間関係を深めることにつながり、放課後の学校施設の開放などにより、地域の教育の拠点としての役割を果たしたりするなど、学校を地域へ開くことで、お互いの教育力を一層高めることが可能です。

学校を地域づくりの拠点にするために、学校施設の活用に関しても、もっと相互利用が進むような仕組みが必要です。以前は、例えば学校の校庭、調理室や図工室など、学校教育の施設だから学校教育にしか使えないという思い込みが多く見受けられましたが、地域への開放が進み、相互利用が進む中で、学校が地域づくりの拠点になるという認識につながると考えられます。

学校には、保護者や地域の方と良い関係を築くためのコミュニケーション能力が今後より求められ、地域の多様な人の参加・協力を得て、教育効果を高めるなど、地域の人材や団体との調整能力など多様なマネジメント能力が求められていくものと考えられます。また今後は、地域の方に学校に来ていただいて支援してもらうことにメリットがあるということを、教員が今以上に理解する必要があります。

学校のニーズと地域の力をつなぎ合わせる学校支援地域組織のコーディネーターには、PTA の役員経験者に多く就任していただいています。子どもが学校を卒業すると、なかなか学校との関わりを持てなくなってしまうという指摘がありますが、コーディネーターとして引き続き学校に関わって、PTA で培ってきた経験を活かして活動していくことは、コーディネーターと学校の双方にとってメリットがあります。

これに関連して、子どもが卒業した後でも学校と関係を持ち続けるには、PTA の OB・OG 組織が大きな役割を担っています。最近は、学校支援コーディネーターや四小ファンクラブ、三小サポーターズ、おやじの会など OB・OG が活躍している活動が増えてきており、こういった活動が今後も増えていくことが望まれます。

このように、学校支援地域組織をはじめ、様々な学校を支援する組織がありますが、それぞれが別々に活動するのではなく連携して取り組むことで、支援が拡大すると思われます。

また、幼稚園・保育園等は、通園時などに保護者と直接顔を合わせて話をする機会が持てるので、それを活かして、相談・助言等の支援や地域の子育て支援、体験活動の情報等を積極的に提供することが可能です。
小・中学校において支援が届きにくい保護者には、保護者が多く集まる行事、たとえば３歳児検診や入園説明会、入学式等の活用や、個別の家庭訪問、ITの利用など、家庭へ支援が届くような工夫した取組が望まれます。

３ 家庭に期待すること

学校と家庭が目標を共有することにより、子どもに対して効果的な指導ができていきます。保護者は積極的に学校行事や参観日等へ参加し、学校の教育目標を理解するとともに、実際の子どもたちの活動の様子を知る努力が求められます。

そして、保護者自らが近隣住民とあいさつを交わしたり、地域活動や行事へ積極的に参加する姿を子どもに見せたりすることで、子どもも地域活動や行事への参加機会が増え、「地域の一員」という意識が芽生えるきっかけになります。

また、保護者がボランティア活動へ関心を持ち参加することで、子どもの社会参加を促進することにもつながります。
「結婚して子どもが生まれるまで地域と関わりを持つ機会が少ない」、「町会等の集まりに参加したいが、仕事が忙しくて難しい」、「小さい子をどこにも預けられないから、集まりに参加できない」等の理由から地域とつながりを持てない家庭もあるため、そうした家庭ともつながりが持てるような方策を打ち出していく必要があります。

一方で、地域住民同士のつながりの希薄化などから、孤立感を抱えている家庭が増え、子育てに関する悩みや不安を解決できる場がなく、ストレスが積み重なり、ストレス発散の矛先が自分の子どもに向いてしまうケースも見受けられます。

保護者は、子どもに体験活動をさせたいときや子育ての悩み・不安を感じる

ときには、支援機関や団体を活用することができます。そのためにも、地域の行事や子育て支援の情報の収集に心がけることが必要です。

福生市では、社会福祉協議会が支援する「子育てサロン」や、保育協議会の「なかよしクラブ」など、様々な子育て支援事業が行われていますが、そういった子育て支援の取組が、より多くの孤立してしまっている家庭まで結び付いていけるように、子育て支援に関する情報発信のさらなる徹底が望まれます。

昔の日本には、他人の子も自分の子と同じように「地域の子」として、危険なこと、間違っていることをしていれば分け隔てなく注意し合い、地域で青少年の健全育成を育む習慣が根付いていました。現代にもそのような機能があれば、孤立している家庭の悩みや不安の解消が期待できます。この効果は非常に大きく、地域とのつながりを作る第一歩になり、地域の安全や、住みよい環境づくりにつながります。

行政が地域に、このような機能の必要性を説いていき、習慣として根付くまで支援することも一つの手段と考えられます。

４ 地域に期待すること

地域の自然や伝統、文化に触れ、育まれる中で、「地域」というものを意識し、「自分は地域の一員である」と意識していくものと考えられます。

子どもは、地域の人々と一緒に様々な体験をすることで、自然と地域の人々とのつながりが持てるようになります。お互いの顔を覚えると、あいさつや声かけが交わされ、安心安全な地域づくりにもつながると考えられます。

また、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災では、人と人との支え合い、地域のつながりの重要性が改めて認識されました。

子どもが地域の人々とつながるには、子どもたちが多くの地域の人と触れ合い、隣近所に住んでいる人をお互いに知ってもらうことが効果的です。

市内の全小学校で、放課後子ども教室「ふっさっ子の広場」が開かれています。安全な見守りのもと、様々な学年の子どもたちが集団ルール等の社会性や自主性、協調性などを身につけ、一人一人が健やかに育っていくことを目的として、それぞれの広場ごとに昔遊びや工作、英会話教室や軽スポーツ大会等、特色のあるイベントを行っています。イベントは多くの市民の協力を得て開か

れており、地域の高齢者の方でイベントのボランティアにいらっしゃる方も多く見受けられます。
今後、このような子どもと高齢者のつながる場がさらに増えていけば、高齢者の孤立防止にもつながり、なおかつ子どもの親へのサポートにもなります。さらに、そこで何か同じ活動・体験をすることで、人間関係も深まり、地域の教育力を一層高めることができます。

福生第四小学校の「四小ファンクラブ」では、四小の入学者数の減少から、「もしかすると四小が無くなってしまうかもしれない」という問題意識や危機感を地域の方々が持って、活動に参加し始めたそうです。このように、地域の問題を自分たちの問題として捉えることで、活動に積極的に参加する人が増えていくと期待されます。地域課題解決の意識を持ち、エネルギーを持ちながら活動を広めていく地域活動の核となっている事例の一つです。

また、地域色豊かな伝統文化・伝統芸能でつながる場合もあります。福生市は地域ごとに特色があるお囃子・お祭り等があり、その稽古では、地域の指導者から、主に小・中学生の子どもたちが教わっています。特にお囃子は、男女ともに多くの子どもが参加しており、中には学校を卒業した後も継続して活動している方もいて、盛んに活動が行われていると言えます。夏のお祭りの時期になると、各町会のお囃子が一堂に会し、競演する場があります。これは他の地域と交流する良い機会であり、このように発表の場等を上手くコーディネート出来れば、地域の教育力の向上が期待できます。

この伝統文化・伝統芸能の活動は、子どもたちへ文化を継承するだけではなく、礼儀や作法などの社会生活で必要な基本のルールを身に付けることもできます。こういった活動が盛んに行われること自体が、地域の教育力の向上につながると考えられます。

また、その土地の自然環境も地域の教育力を育む要素であると考えます。福生市には多摩川があり、子どもたちの良き学びの場となっています。さらに設備等を充実させることで、子どもたちの自然環境を活用したイベントが開催されれば地域の教育力の向上につながります。

子どもたちの「生きる力」を育むには、友達との集団遊びや社会体験、自然体験など様々な体験を充実させるべきであると考えられます。

まとめ

１　ネットワークの重要性と、それを構築する方法

地域の教育力は、様々なネットワークによって高められます。人間関係の豊かな地域を目指して、人と人をつなぎ合わせる役割を地域全体で担っていくことが求められます。

ネットワークを構築するにはどういった取組が効果的なのか。まずは、誰でも気軽に参加できるイベント等で活動に関わってもらうことで、地域活動に参加する第一歩を踏み出してもらうことが重要です。

その中で、まず楽しさを感じ、活動する中でやりがいを感じられれば、「次もまたやりたい」という気持ちが芽生え、活動を続ける人が増えていくと思われます。「お手伝い」という立場ではなく、役割を与え、それをやり遂げる中で達成感を得ることで、より大きなやりがいを感じ、次の活動への原動力となっていきます。

地域には、自分が学んできたことや得意としていることを「人の役に立てたい」と思っている方が多いと思われます。団塊世代の方は、地域を変えていく十分な力を持っていますが、現役時代に、地域との関わりが薄く、地域に出ることに苦手意識を持っている人もみられます。そこで、人材育成のための研修や活動の場を適切に提供するなどの仕組みを整備するとともに、広く声かけを行うなど、そのような方と地域を結び付けるシステムを作り、積極的に地域の人材を掘り起こしていく必要があります。

２　学校・家庭・地域の連携

学校を支援する取組は、地域住民にとってこれまで培ってきた知識や経験、学習の成果を後世に生かすことであると考えます。そして、子どもと触れ合うこと、学校で教職員や他の地域住民と交流することが、さらなる学校や地域での活動につながっていきます。また、人に教えることでお互いに学び合い、豊かな経験となります。

さらに、そのような活動が増えることで、地域全体で子どもの教育に対する関心が高まり、地域全体の教育力の向上へつながると考えられます。

今後は、家庭や地域社会の教育力の向上のため、学校・家庭・地域がそれぞれに期待される役割を果たしつつ、地域社会全体が一体となって地域の教育課題に取り組めるように、市民、関係機関が十分に連携協力できるような仕組みづくりが必要です。

学校・家庭・地域の連携は、子どもの教育問題だけでなく、大人自身の問題、ひいては地域やまちづくりの問題解決につながるものであり、社会全体の教育力の向上をめざすものです。三者が連携して教育支援を充実することで、子どもたちや学校、地域がどのような姿になるのか、しっかり理解してもらうことが市民参加の教育を実現する上で重要なポイントとなります。

３　コーディネートの必要性と、今後の社会教育委員の会議のあり方

学校・家庭・地域が連携して教育支援を効果的に進めるためには、地域の現状を把握し、それぞれの現場に適合するような協力関係をうまくコーディネートできる人材が重要です。

コーディネーターは、地域のことをよく理解して、学校や関係団体、行政等との連携の要となることができ、また、地域の人々に子どもの育ちに関する課題を共有してもらえるような人が望まれます。

地域の人・もの・事をつなぎ合わせていくためには、地域の人・サークル・ネットワークについてよく知っていて、なおかつコーディネート出来る部署、人、もしくは「人材バンク」のような仕組みがあることが望まれます。
しかし現状は、様々な分野ごとのネットワークはありますが、それらの情報が一元化されていないという状況です。

第 2 期福生市生涯学習推進計画では、公民館がその一翼を担うことが求められていますが、この社会教育委員の会議という場も、様々な個人・サークル・ネットワークをつなぐコーディネートの機会になれる可能性を秘めていると考えられます。会議の中で「こういったことをやりたい」という方がいれば、どこに働きかければ良いのか考え、実際に働きかけ、コスト等の面も考えつつ実現に向けて動いていくのが、この会議の将来像だと考えます。机上で考えるだけではなく、時には地域の教育力の向上のために「行動する」会議であるべきです。会議で出された良い案や意見を社会教育委員それぞれがつながりのある団体等へ持ち帰り、各団体、組織が効果的に、また実効性のある結び付きを図

れることによって、より地域の教育力が向上すると思われます。

４　行政に求めること

住民のニーズは多様化し、地域の課題も山積していることから、地域の教育力の向上に向けては教育委員会だけでなく、各部局との連携も必要になってきます。行政自身が垣根を取り払い、横のつながりを最大限に活かして一体となり、効果的・効率的な施策を展開することが、学校・家庭・地域の教育力の向上に必要です。

加えて、市民の主体性を損なうことなく、市民の活動の連携を推進していく支援が求められています。

これらを実現させることにより、地域交流の活性化、地域安全の高まり、社会全体で子どもを育てることができるなど、地域の教育力を再構築することができると考えます。

研究の経緯

平成 23 年度

第 1 回会議

平成 23 年　4 月 21 日　15：00～16：30

・今年度の活動内容について

第 2 回会議

平成 23 年　5 月 19 日　16：00～17：15

・第２期生涯学習推進計画「（１）地域の教育力の向上」について

第 3 回会議

平成 23 年　6 月 23 日　15：00～16：30

・地域の教育力の向上について

第 4 回会議

平成 23 年　7 月 20 日　10：00～11：30

・地域の教育力の向上について

第 5 回会議

平成 23 年　8 月 18 日　15：30～17：00

・地域の教育力の向上について

第 6 回会議

平成 23 年　9 月 20 日　15：00～16：30

・四小ファンクラブの活動について

第 7 回会議

平成 23 年 10 月 20 日　15：00～16：30

・四小ファンクラブの説明を受けて

第 8 回会議

平成 23 年 11 月 24 日　15：00～16：30

・地域の課題に気付き、積極的に活動する人を増やすには

第 9 回会議

平成 23 年 12 月 22 日　15：00～16：30

・今後の会議の進行予定について

第 10 回会議

平成 24 年　1 月 26 日　15：00～16：30

・データから福生の現状を読む

第 11 回会議

平成 24 年　2 月 23 日　15：00～16：30

・地域の教育力を向上するにあたり、その課題と解決へのヒント（ＫＪ法）

第 12 回会議

平成 24 年　3 月 21 日　15：00～16：30

・各委員のレポート発表

～前回出された課題と解決へのヒントについて～

平成 24 年度

第 1 回会議

平成 24 年　4 月 26 日　15：00～16：30

・「学校に望む役割」について

～いかに地域と連携していくか～

第 2 回会議

平成 24 年　5 月 21 日　15：00～16：30

・「学校に望む役割」について

～学校支援地域組織を含めた学校支援について～

第 3 回会議

平成 24 年　6 月 20 日　15：00～16：30

・「家庭に望む役割」について

～生きる力を身に付けた子どもを育て上げるための役割～

～子育てしている親をサポートしていく体制を築くためには～

第 4 回会議

平成 24 年　7 月 25 日　15：00～16：30

・社会教育関係団体補助金について（諮問）

第 5 回会議

平成 24 年　8 月 22 日　15：00～16：30

・「家庭に望む役割」について

～孤立してしまっている家庭へ、どうアプローチしていくか～

・「地域に望む役割」について

～地域の問題を自分たちの課題として捉え、気付き、

自発的に活動していくためには～

第 6 回会議

平成 24 年　9 月 26 日　15：00～16：30

・「地域に望む役割」について

～循環型次世代リーダーの養成を図りながら、活動を継続させるためには～

～いかにやりがいを感じながら活動してもらえるか～

第 7 回会議

平成 24 年 10 月 24 日　15：00～16：30

・「地域に望む役割」について

～大人と子ども、様々な世代の人たちとの交流を促進させるためには～

第 8 回会議

平成 24 年 11 月 21 日　15：00～16：30

・地域のネットワークについて

～意欲のある人、専門的な力を持つ人に地域に目を向けてもらうためには～

第 9 回会議

平成 24 年 12 月 19 日　15：00～16：30

・地域のネットワークについて

～意欲のある人に必要性を気付かせ、

地域のニーズとうまくつなげるためには～

第 10 回会議

平成 25 年　1 月 28 日　16：00～17：15

・研究報告書について（内容確認及び校正）

第 11 回会議

平成 25 年　2 月 15 日　15：00～16：30

・研究報告書について（内容確認及び校正）

第 12 回会議

平成 25 年　3 月 19 日　15：00～16：30

・研究報告書について（内容確認及び校正）

平成 23・24 年度　福生市社会教育委員名簿

議長	日野　さよ子	学識経験者
副議長	井上　誠	福生市文化協会推薦
	中山　陽子	特定非営利活動法人福生市体育協会推薦
	渡辺　邦雄	福生市ボーイスカウト・ガールスカウト連合育成会推薦
	野村　亮	福生市公立小中学校 PTA 連合会推薦
	大杉　浩司	学識経験者
	高田　ヒロ子	学識経験者
	萬沢　明	学識経験者
	村山　利夫	学識経験者（平成 24 年 6 月 30 日退任）
	酒井　憲幸	福生市公立小学校長会推薦（平成 24 年 10 月 19 日退任）

担当職員

教育次長	田村　博敏
スポーツ推進課長	鳥越　裕之
公民館長	高橋　清樹
図書館長	島　弘
庶務課長	高木　裕
生涯学習推進課長	高橋　邦彦
生涯学習推進係長	奥富　清
生涯学習推進係主事	渡邉　美香